

アメリカ留学日記 (4)

Cal Poly での学習

～ 日本との違いへの順応 ～

早稲田大学政治経済学部 3 年・California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学中

服部 祐也

留学開始から四ヶ月半が過ぎ、折り返し地点に立とうとしています。今回は、私の留学先である California Polytechnic State University San Luis Obispo(以下 Cal Poly)での学習面について、早稲田大学と Cal Poly の比較、自分の成長、今後の課題の順に書こうと思います。

1、日本の大学との違い

－インタラクティブ・「先生」・メリハリ－

日本の大学は研究重視のドイツ型教育形態から始まった一方で、アメリカの大学が主に教育重視のリベラルアーツ型から端を発したという違いがあります。その違いが私の日本での大学(早稲田大学)とここでの大学(Cal Poly)でもくっきりと表れています。

まず授業に関してですが、日本の大学、少なくとも私の大学である早稲田大学は教授から学生への一方通行の講義です。学生が一言も発言せずに終わる授業が普通です。それに対して、Cal Poly では講義というよりはディスカッションのような、双方向の参加によって成り立っています。比較的大きなクラスでも、授業中に学生の発言や質問がなかったことは、私は今まで一度も体験していません。

次に教授と学生との関係です。早稲田大学はまさに徒弟制度のような、「教授」と「学生」という図式が成り立っていると思います。例えば、通常の講義のほとんどは一方通行ですし、少人数のゼミにしても、教授が見守る中、学生が討論し、それを教授が最後に講評する、というような形が一般的だと思います。一方で、ここ Cal Poly は教育に力を入れているという特色も影響しているのか、教授はどちらかというと「先生」のような存在です。授業は先生が学生に色々問いかけ、その反応を見ながら授業を進めていきます。

もちろん早稲田大学には非常に多くの学生がいるのに対し、Cal Poly が全米でも有数の少人数教育に力を入れているという違いがあり、UC(University of California)系の大学とではまた雰囲気異なるでしょう。よって日本の大学とアメリカの大学、というカテゴリーは出来ませんが、少なくとも学生の大学生活に関しては、日本とアメリカではかなり違うように感じます。日本の学生はアルバイトを授業の前後にすることがよくありますし、キャンパスには多くの人がお洒落をしてくれています。平日に飲み会があることもしばしばです。しかしここは違います。こちらの学生は、授業とそうでないときのメリハリがしっかりしていると

思います。多くの学生は授業がない日にアルバイトをし、キャンパスへお洒落はしてこず(大学名の入ったパーカを着ている人がとても多いです)、週末には思い切り遊びます。この違いは、期末試験でいい結果を残さずすればいい授業が大半である日本の大学と、毎回の出席が要求されコンスタントに quiz がある授業が大半のアメリカの大学のシステムの違いが大きな要因だと思います。

このように大きく違う環境に、私は留学当初、順応するのにしばらく時間がかかりました。以下に私の経験を書いていきます。



モロッコレストランにて。英語の先生と留学生達。

2、成長－「授業を聞く」から「授業に参加」へ－

つい半年前までは、英語で授業を受けることなど体験したことなかった私。留学当初は非常に大きな不安を抱え、授業に臨んでいたことは言うまでもありません。その私が、この4ヶ月で授業中の姿勢が変わり、また授業中の理解度が増してきました。

まず、授業を受ける姿勢が受身の姿勢から積極的に参加する姿勢に変わってきました。留学当初は、前述のような、日本の学生の授業に対する姿勢とアメリカの学生のそれとの違いに戸惑い、授業中のインタラクティブなやり取りをただ黙って見守っているだけでした。時が経つにつれ、発言をしない人物像が出来上がる